

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2590100372		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム瀬田 (2階)		
所在地	〒520-2141 滋賀県大津市大江3丁目6番5号		
自己評価作成日	平成27年9月12日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年10月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開所1年目であり、地域への認知・関わりを持っていくために、地域行事には積極的に入居者・職員ともに参加するようにしています。地域の方も優しく受け入れてくださり、サポートいただいたり近所の散歩では、近所の方から声をかけていただき、挨拶や世間話をしたりしています。ご家族からも、「GHで終結せずに外に出て欲しい」と要望あり、地域の行事には出来るだけ参加しています。また、季節のレクリエーションでも外出を主として計画を立て実行しています。ADLの高い入居者が多いので、積極的に外出を行っています。スーパーへの買い物や、近くの公園への散歩・回覧板返しとGHに閉じこもることなく、どンドン外へ出て行けるよう・ADLの維持・向上を楽しみながら出来るように目指しています。外出以外でも、家事が在宅時できなかったのが、他入居者や職員と一緒にすることで、手際よくされ、その姿を見てご家族様も喜ばれています。何が出来るか・どこをサポートするかを探りながら、理念の「し・じ・み」信頼し合い・自分らしく・皆イキイキ楽しい我が家を目指し、入居者・職員ともが楽しく・我が家のように過ごしていけるようにと、日々努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざせるよう特産の「し・じ・み」で実践できるGH理念を考え、全職員が理解・共有し実践するように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。自治会のサロンや地域のお祭りに積極的参加し、交流を図っている。また、近所に散歩に出かけた際に挨拶など交わしながら交流の機会がある。近隣の保育園や小学校との交流をこれから持てるように働きかけて生きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H26.12月瀬田東支所で地域の方を対象に認知症サポーター講座を開催した。今年度は自治会に向けて「GHとはどんなところか」ということを含め行う方向で検討中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に年6回開催している。初年度と言うこともあり、さまざまなご意見や質問や情報を頂き、サービス向上できるようにつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進議事録は、管理者が手渡しで行っていたが、今年度より「1年間まとめて提出が良い」と行政から言われたため、関わっていない。地域包括支援センターとは、情報の共有や相談し協力関係を築いている。行政主催の研修も勤務調整し、参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けたものが、ミーティング等で伝達講習する。言葉による拘束には、全職員注意している。玄関は、戸締りの為夜間のみ施錠し日中は、外に出たいときは自由に出れる環境になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、また、回覧ニュースで職員に事例を見て意識づけを行っている。個々で自覚をもち、互いに注意・声かけを意識し虐待がない様にしている。		

洛和グループホーム瀬田(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修でも学び、実際に利用されている入居者も居られ、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・改定時に説明を行い、同意を得ている。質問や疑問点も伺い説明している。不明確な場合は、上長に確認してから説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族アンケートやご意見ボックスの設置などで意見を聞く機会を設けている。御家族アンケートの結果を踏まえ、毎月向上できているか職員で確認・改善している。アンケートでの課題や改善策は御家族・外部に報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見を集めている。出来るだけ、職員が偏らないように注意し開催している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を設け、目標等について話している。人員が不足している中、なかなか「やりがい」など働く環境に向上心を向けるのが難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるよう勤務体制を整えている。また、資格取得に向け法人内の研修に希望者は参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流の機会を持ち、他事業所との関わり・意見交換ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式・アセスメントを行いながら、利用者・ご家族から情報を得、安心していただける環境・関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談・契約時に要望・気になることなどをお聞きし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・相談員にて入居面談を行い、医療面からの判断をしたのち、法人内の複数名にてサービス利用が適正か判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場で、「出来る事・どうすれば出来るか」を探し、出来ないところをサポートし出来るだけ自立した生活を送っていただけるよう、共に暮らす者としての関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の声かけや、電話で話していただいたり、受診に同行いただいたり等、ケアに参加していただく機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのケアマネ等の訪問や自宅への帰宅などもある。ケアの中でも思い出話などしていただけるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に注意し、トラブルのない様に交流・支え合い出来るように心がけ、和やかな雰囲気でも過ごして頂けるよう努めている。		

洛和グループホーム瀬田(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在、退去の方は居られないが、何かあれば連絡していただきたい旨、お伝えしていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	振り返りシートを活用し、かつ、本人やご家族に希望・意向を聞いている。ミーティングで話し合い、その人らしさ・思いを尊重できるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・御家族より情報収集を行い、なじみの習慣を続けられるように努めている。日常の会話の中でも、季節の行事ごと・習慣などを聞きながらおはぎを作ったり季節食なども行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、管理日誌・介護日誌をもとに、24時間シートをケアプラン作成時に見直し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前にご本人・ご家族の要望を聞き、ミーティングで職員間で話し合い検討したうえでプランを作成している。主治医・訪問看護師からも意見を聞き、反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌・介護日誌に日々の生活状況を記入し、申し送りでも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望される方は、訪問美容や訪問歯科など利用しておられる。		

洛和グループホーム瀬田(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやコンビニなどに買い物に行ったり、公園まで散歩に出かけたりしている。自治会のサロンに参加したり地域の行事に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重し、適切な医療を受けられるように支援している。月2回、かかりつけ医の往診を受けられ、緊急時には指示を仰ぎ、対応出来るようにしている。また、今までかかっていた医院・病院へ通院されている方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回全員訪問看護を受けており、情報交換・相談をしている。また、24時間連絡取れる体制であり、適宜報告・相談をし必要であれば緊急対応も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員がお見舞いの際や定期的に状態を確認し、早期退院に向けての対応など出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。現時点ではまだないが必要性が高まった時には、再度話し合いをしてケア・支援に取り組んでいく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修に全職員参加しており、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回、消防訓練を実施し、かつ、消防署の指導のもと年2回避難訓練を実施している。前が避難場所になっており、「何かあれば協力します」と、言っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要以上に認知症であることにとらわれないようにしている。個人にあった声かけをし、声の大きさなどプライバシーにも配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選んでいただけるような声かけを行い、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールは決めておらず、その日の様子に合わせ、外出をしたり個人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでいただいたり、座って見えるよう鏡を準備し整容・ひげそりをしていただいたりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は好みに合わせてご飯かパンを提供している。食事作り・盛り付け・片づけも一緒にしている。栄養バランス・見た目等満足していただけるよう気をつけている。買い物でも食べたい物を聞いて購入したりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に食事量を記入している。摂取状況の変化があった場合は、適宜話し合いをし形態や提供方法の検討をし対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアしていただけるよう、物品の準備・声かけを行っている。また、希望者には歯科衛生士の口腔ケア(週1回)、歯科検診(月1回)を受けられGHとの情報共有をしている。		

洛和グループホーム瀬田(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動のシグナルを把握したり、チェック表を活用し、個々のパターンを把握に努め、適宜声かけ・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を使用したり、Dr指示のもと必要者には下剤を使用したりしている。 毎朝、みんなの体操・足踏み体操等の参加を声かけしている。散歩など身体を動かす機会を出来るだけ設けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活習慣に合わせて入浴時間を決めたり、入浴希望者には臨機応変に対応している。入浴剤も使用し、入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息パターンや生活のスタイルを尊重している。日中でも疲れが見えたら休息の声かけ・対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、すぐに確認できるようにしている。症状の変化があった場合は往診医に相談している。薬剤師とも小まめに連絡取り合い、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野の把握(歌・調理・洗濯・等)に努め提供できるよう、物品をそろえている。やらされている感のない様、意思を尊重し提供し役割・張り合いを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常的に支援をしており、外出の機会を多く持てるよう努めている。また、年間行事で外出も計画し、季節を感じていただける場所や日頃行けないところ・地域の催しへ出掛けられるよう支援している。また、ご家族とも外出したいいただいたりもしている。		

洛和グループホーム瀬田(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望・ご家族の意向をもとに、お金を所持されている方もいる。職員同行の下にはなるが、ご自身の財布から自由に買い物されることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や花を飾るなど季節感を感じられる空間づくりを目指している。 温度や湿度にも配慮し、エアコン・加湿器・換気扇を使い調整をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ちょっとした死角のソファで休息出来たり、TV前のソファでゆっくりされたりと、思い思いの場所で過ごして頂けるよう空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具の持参は少なく、シンプルな居室が多い。その中でも「本人らしさ」が感じられるような飾りや空間になっていると思う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	周囲が良く見えるように開放的な空間づくりをしている。また、本や新聞など自由に見れるよう手の届くところに置いている。必要に応じて夜間でも安全に移動できるように足元灯を設置している。		